

## 東京オリンピック・

# パラリンピックを見て思うこと

新型コロナウイルス感染症の拡大で開催の是非が問われる中、一年間の延期ののち、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されました。

太宰府市内在住の道下美里選手が、パラリンピックマラソン女子視覚障がいクラスで金メダルを獲得されるなど、多くの選手が活躍をテレビや新聞、インターネットなどで見ることができました。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くのイベントが中止や延期をされる中、オリンピック・パラリンピックを開催してもよいのかという意見もありました。

そういった中開催された今回の大会でしたが、様々な人権問題に関することについて、改めて考えさせられました。みなさんも一緒に振り返って考えてみましょう。



## …選手に対するSNSでの誹謗中傷…

自分の応援している選手が負けたり、都合が悪い結果や判定があつたりしたときに、相手の選手のSNSに誹謗中傷を含むコメントが書き込みされることがあります。また、メダル獲得の期待が大きかった選手が敗退するなどした時にも、その選手に対して書き込みがありました。応援する思いが強い分、内容も過激になり選手の尊厳をも脅かすものとなりました。SNSは誰もが自由に発信できる便利な道具として利用されていますが、相手のことを十分に知らず、相手の気持ちを考えないで書き込みをすることにより、相手を傷つけることとなります。便利な道具も間違った使い方をする、相手を傷つけ、場合によっては命までも奪ってしまいます。「誰でも加害者になることがある」ということを忘れないようにして、自分の中で正しい判断ができるようにしましょう。

## SNSとは…

SNSとは、ソーシャルネットワークワーキングサービスの略で、登録された利用者同士がインターネット上で交流できる会員制のサービスのことを指す。

…だれもが認め合える社会を…



車いす同士が激しくぶつかる「車いすラグビー」は、男女混合でチームが編成され、障がいの程度によって役割を分担し、チーム一丸となってボールを奪い合い、点数を競うスポーツです。車いすの形も攻撃型と守備型があります。攻撃型は、細かいターンや動きができるようにコンパクトにできており、守備型は、相手の動きを止めるために突き出したバンパーが特徴です。また、性別や障がいの程度が違う人でも、同じチームで競技ができるように、ルールが工夫されています。

2016年に制定された「障害者差別解消法」では、障がいのある人もない人も、その人らしさを互いに認め合いながら、共に生きる社会の実現をめざしています。

車いす利用者だからお店に入れない、障がい者だからアパートを借りることができないなど、「障がいがある人」というだけでなく、「障がいがない人」と違う対応をすることは不当な差別となります。人はそれぞれ違うのがあたり前です。障がいの有無や程度、また、性別が違うということだけで、自分とは違うと排除するのではなく、お互いの個性を認め合いながら、差別のない明るい社会をめざしていきましょ。

…オリンピックは平和の祭典…



今でも世界のどこかで戦争が起こっています。戦争は最大の人権侵害といわれています。

また、オリンピックは平和の祭典といわれています。「スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する」ことも、オリンピックの目的の一つなのです。

今回のオリンピック・パラリンピックを機会に、互いの国のこととをわかり合うことによって、戦争のない平和な世界になれば、この大会を開催してよかったと思えるのではないでしようか。

私たちも、日常生活において、お互いのことをわかり合い、寄り添い、平和を愛する心とともに、「ありがとう」という感謝の気持ちをもって、争いや差別をなくしていきましょ。

手話で  
「ありがとう」



最後まで読んでいただき、  
ありがとうございました！